

3. 1才6カ月児のう蝕罹患型の分類とその予後の推定について

竹内 光春

前報において、1才6カ月児のう蝕罹患型の分類は、3才児において用いられているOABC型より、上下顎乳中側歯 ($\frac{BA|AB}{BA|AB}$) 8歯の状態によって

I型……対象歯にう蝕をみとめないもの

II型……上顎歯のみに1歯以上のう蝕をみとめるもの

III型……下顎歯に1歯以上、あるいは上下顎にそれぞれ1歯以上う蝕をみとめるもの

という分類を与えた方が、予後推定には有用であろうとのべた。

今回は、前報と同様に京都府亀岡市において昭和40年に0才であったもので、1.5才、2才、2.5才および3才時点でのその後、それぞれう蝕罹患状態を追及し得た458の資料について、乳歯う蝕数の推移をしらべ、このう蝕分類型の予後推定の有用性を検討した。

まず各型の1才6カ月時点での分布をみると、I型348(76.0%)、II型95(20.7%)、III型15(3.3%)であって、前報の報告とは若干異っているが、これは本調査では、う蝕検出基準を変えて検出したことによるものと思われる。

これらの分類型を与えたものについて一各年令時別の1人当dmf.歯数の推移をみると、次のようであった。

1.5才時の型	I 型			II 型			III 型		
	n	M	± SD	n	M	± SD	n	M	± SD
1.5才	348	0.09	±0.45	95	3.92	±2.09	15	8.93	±3.35
2才	348	1.91	±2.69	95	7.17	±2.94	15	12.00	±4.11
2.5才	335	4.84	±4.46	94	10.86	±3.97	15	14.73	±4.27
3才	320	8.13	±5.17	92	13.84	±3.74	13	17.46	±3.45

これで見ると、1.5才時点で、I型と分類されたものの中にも、対象歯 ($\frac{BA|AB}{BA|AB}$) 以外にう蝕をもつものがごくわずかに存在することがみられたが、3.0才時点においては、1.5才時点で、II型あるいはIII型と分類されたものよりも、平均dmf 歯数は小さいことがみられた。

しかし、I型のものの各年令時におけるdmf 歯数の巾はかなり大きいので、各年令時の変異係数をみると次のようであった。

1.5才時の型	I	II	III
1.5才	500	21.0	37.5
2.0才	140	41.0	34.2
2.5才	92.1	36.6	28.9
3.0才	63.5	27.0	19.7

すなわち、1.5才時にI型と分類されたものの1人当 dmf 歯数はかなり大きな巾をもっており、それを以て予後を推定するには問題があるが、II型およびIII型については、大体どの時点においても40%以下であり、3才時点では20%を示しているので、推定することはある程度できると考えられた。

また、1才6カ月時点でのI、IIおよびIII型に分類されたものの2才、2.5才、3才時点におけるOABC分類による推移をみると次のようであった。

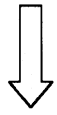
1.5才時の型	年令		(%)		
	区分	2.0才	2.5才	3.0才	
I	O	53.2	26.3	10.9	
	A	2.90	27.5	20.9	
	B	15.2	28.4	37.8	
	C	2.6	17.9	30.3	
II	O	0	0	0	
	A	20.0	5.3	0	
	B	63.2	53.2	42.4	
	C	16.8	49.5	57.6	
III	O	0	0	0	
	A	0	0	0	
	B	0	0	0	
	C	100	100	100	

1.5才時点においてI型と分類されたものであっても、3才時点では80.3%がC型であり、大きく変化することがみられたが、2.0才時点ではわずか2.6%があって、この時点あるいはその後の時点での再判定が必要であるように思われた。

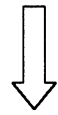
またII型であったものでは3才時点で約半分がC型に移行していることを示した。

以上のような予後推定をより確実にするには、口腔環境の測定資料を加えることが適切ではないかと考え、その簡易な測定法として、GoldらのMSB agar を改正したMSB-Broth のを用いて、1才から4才までの幼児82名について、これを歯垢付着状態OS-test とを併行して行い、これらの結果とう蝕罹患状態の比較を試みた。

この事後追及をつづけ、推定の確実性を増したいと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



前報において,1才6カ月児のう蝕罹患型の分類は,3才児において用いられているOABC型より,上下顎乳中側歯()8歯の状態によって

I型.....対象歯にう蝕をみとめないもの

型.....上顎歯のみに1歯以上のう蝕をみとめるもの

型.....下顎歯に1歯以上,あるいは上下顎にそれぞれ1歯以上う蝕をみとめるものという分類を与えた方が,予後推定には有用であろうとのべた。